

令和3年度国立高等専門学校
入学者選抜統一学力検査問題
問 題 訂 正

「社会」

訂正箇所	2ページ 1 問3 13行目
誤	(『FAOSAT/Production』をもとに作成)
正	(『FAOSTAT/Production』をもとに作成)

令和3年度入学者選抜学力検査問題

社 会

(配 点)

1 16点	2 12点	3 8点	4 12点
5 12点	6 12点	7 12点	8 16点

(注 意 事 項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は1ページから14ページまである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受検番号を記入し、受検番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。受検番号が「0(ゼロ)」から始まる場合は、0(ゼロ)を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ずHBの黒鉛筆を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりにマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しきずを残さないこと。
- 8 「正しいものを二つ選べ」など、一つの問題で複数の解答を求められる場合は、一つの解答欄につき選択肢を一つだけ塗りつぶすこと。

例 「ウ」、「オ」を塗りつぶす場合

問1	⑦	⑨	●	⑩	⑪	⑫
	⑧	⑩	ウ	⑪	●	⑫

この場合、「ウ」、「オ」の順番は関係ない。

1 次の図中のいからには、日本を出発する世界一周旅行で訪問した4か国について示している。

問1から問4までの各問い合わせに答えよ。なお、図中の○はそれぞれの国の首都の位置を示している。

図



※経線と緯線が直角に交わる地図である。経線は15度間隔、緯線は30度間隔で引いている。

問1 次のAからDの紀行文は、図中のいからにのいずれかの国について記したものである。紀行文と図中で示した国組み合わせとして正しいものを、下のアからエのうちから一つ選べ。

紀行文

- A この国では、西部に標高3000mを超える造山帯の山脈があり、中部には平原が広がっている。中部では、とうもろこしや大豆の畑が多く、コンバインなどの機械を使った大規模な農場があった。とくに、円形の農地が並び、回転式のスプリンクラーで散水する風景には驚いた。
- B この国では、東洋と西洋の文化が融合しており、米だけでなく小麦を用いた料理もある。また、モスク（イスラム寺院・礼拝所）があるので、調べてみるとイスラム教徒の多い国だと分かった。
- C イギリスの植民地であったため、街中にはヨーロッパ風の建築物を見かけた。12月だというのに、気温が高い。農場で羊を多く見かけたので、調べてみると羊毛生産が盛んな国だった。また、鉄鉱石や石炭などの資源も豊富で、これらは日本や中国にも多く輸出されている。
- D この国では東西で降水量が異なっている。東部にある大河川の河口部では米を栽培する水田が多く、西部では米だけでなく小麦を主に栽培していた。また、降水量の多い北東部では、茶栽培が有名で海外にも輸出されている。

ア A-い

イ B-ろ

ウ C-は

エ D-に

問2 この世界一周旅行では、日本時間12月24日14時発の飛行機で日本を出発した。飛行機で14時間後、図中のにの国の首都にある空港へ着陸した。着陸後の機内放送で案内された現地時間として最も適当なものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

ア 12月24日4時 イ 12月24日14時 ウ 12月25日4時 エ 12月25日14時

問3 次の表1は国別の家畜頭数と畜産物の生産数を示している。表1中のアからエには、図中のいからにのいずれかの国が当てはまる。下の解説文を参考にして、図中のろの国に当てはまるものを、表1中のアからエのうちから一つ選べ。

表1 国別の家畜頭数と畜産物の生産数(2018年)

	家畜頭数* (頭)			畜産物の生産数*** (頭)		
	牛	豚	羊	牛肉	豚肉	羊肉
ア	26395734	2534030	70067316	7913300	5378100	31828400
イ	184464035	8485240	61666343	9202631	8461298	19154944
ウ	94298000	74550200	5265000	33703400	124512300	2357200
エ	15943586	1361	33677636	3426180	0	22627714

*家畜頭数とは、国内で飼育される家畜の総数を示している。

**畜産物の生産数は、国内で食肉となった家畜頭数を示している。

(『FAOSAT/Production』をもとに作成)

解説文

家畜頭数や畜産物の生産数は自然環境だけでなく、それぞれの国の宗教の影響を受ける場合もある。例えば、イスラム教では不淨なものとして豚を食することが禁じられている。一方で、ヒンドゥー教では牛を神聖な存在とみており、牛肉を食べることを避けている。

問4 次の表2と表3は、国別の移動電話契約数と国別の在留日本人総数をそれぞれ示している。表2と表3中のWからZは、図中のいからにのいずれかの国が当てはまる。表2と表3中のZに当てはまる国を、下のアからエのうちから一つ選べ。

表2 国別の移動電話契約数*

	2000年		2017年	
	総数 (千件)	100人あたり (件)	総数 (千件)	100人あたり (件)
W	16133	25.5	77800	96.4
X	3577	0.3	1168902	87.3
Y	109478	38.8	391600	120.7
Z	8562	44.9	27553	112.7

表3 国別の在留日本人総数**

	在留日本人総数(人)	
	2000年	2017年
W	1030	1791
X	2035	9197
Y	297968	426206
Z	38427	97223

*移動電話とは、携帯電話・スマートフォンなどの一般の電話網の技術を用いた電話を指す。

**在留日本人総数には、それぞれの国における日本人の永住者、長期滞在者を含む。

(『世界国勢団会2019/20年版』、『海外在留邦人数調査統計(外務省)』より作成)

ア　　い　　イ　　ろ　　ウ　　は　　エ　　に

2 次ページの図と表を見て、問1から問3までの各問い合わせに答えよ。

問1 図1の①から④は、日本の4つの主な河川の本流の流路を示している。また、それぞれの河川の拡大図には、その河口の位置と本流が流れる県を示している。また、図2は、①から④の河川の河口のいずれかの地点の雨温図である。雨温図の地点として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

ア ①の河口 イ ②の河口 ウ ③の河口 エ ④の河口

問2 表1のIからIIIは、日本なし、りんご、いちごのいずれかであり、IからIIIの作物の生産量の上位5県を示した。表1のIからIIIの作物の組み合わせとして正しいものを、次のアからカのうちから一つ選べ。なお表1では、①から④の本流が流れる県がIからIIIの作物の生産量の上位5県に入っている場合には、県名ではなく①から④の河川の番号で示してある。ただし、複数の①から④の河川の本流が流れる県が生産量の上位5県に入っている場合は、同一の番号が表1に重複して書かれている場合がある。

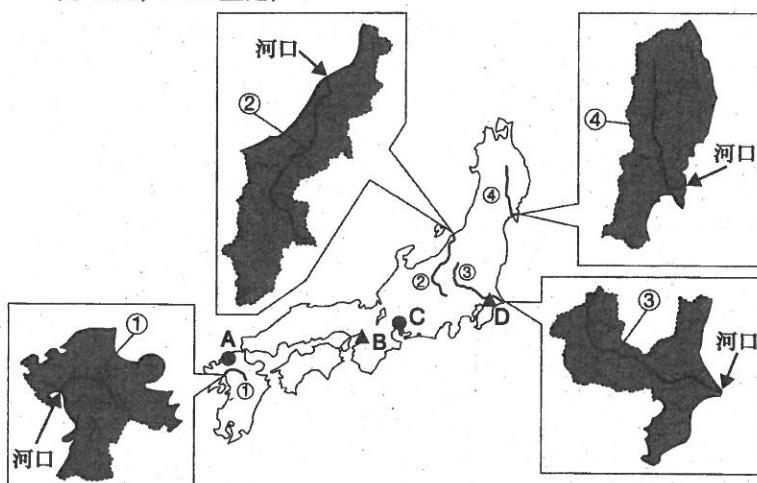
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
I	日本なし	日本なし	りんご	りんご	いちご	いちご
II	りんご	いちご	日本なし	いちご	日本なし	りんご
III	いちご	りんご	いちご	日本なし	りんご	日本なし

問3 表2は、図1のAからDまでの港もしくは空港の輸入品目上位5品目と総輸入金額に占める割合および総輸入金額を示している。表2のXからZは、石油、集積回路、魚介類のいずれかである。XからZの品目の組み合わせとして正しいものを、次のアからカのうちから一つ選べ。なお、集積回路とは、半導体の表面に微細かつ複雑な電子回路を組み込んだ電子部品である。また、魚介類には、かんづめを含む。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
X	石油	石油	集積回路	集積回路	魚介類	魚介類
Y	集積回路	魚介類	石油	魚介類	石油	集積回路
Z	魚介類	集積回路	魚介類	石油	集積回路	石油

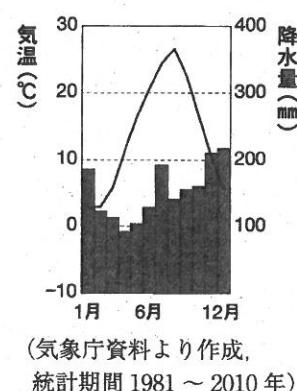
図1 日本の4つの主な河川の本流流路と港と空港

(●は港、▲は空港)



※ [] で示した拡大図の縮尺は、すべて同じである。

図2 雨温図



(気象庁資料より作成、
統計期間 1981～2010年)

表1 日本なし、りんご、いちごの生産量上位5県

	1位	2位	3位	4位	5位
I	栃木県	①	①	静岡県	長崎県
II	③	③	栃木県	福島県	鳥取県
III	青森県	②	④	山形県	福島県

(『日本国勢団会 2020/21年版』より作成)

表2 A, B, C, D 港の輸入品目上位5品目と総輸入金額に占める割合(%) および総輸入金額(億円)

	1位	2位	3位	4位	5位	総輸入金額
A	X (7.5)	家具 (5.5)	絶縁電線・ ケーブル (5.1)	衣類 (5.1)	肉類 (4.1)	10465
B	医薬品 (23.2)	通信機 (14.2)	Y (6.2)	科学光学機器 (4.8)	衣類 (2.9)	39695
C	液化ガス (8.4)	Z (7.8)	衣類 (7.1)	絶縁電線・ ケーブル (5.1)	アルミニウム (4.5)	50849
D	半導体製造装置 (13.7)	医薬品 (12.3)	コンピュータ (8.8)	Y (8.4)	科学光学機器 (6.4)	129560

※絶縁電線・ケーブルとは、電線・ケーブルを絶縁体で覆ったもので、電気機器に分類される。

科学光学機器とは、望遠鏡(双眼鏡)、顕微鏡、カメラ、内視鏡、液晶画面用偏光板フィルム等である。

液化ガスとは、液化天然ガス、液化石油ガス等である。

(『日本国勢団会 2020/21年版』より作成)

3 問1、問2に答えよ。

問1 次の2万5000分の1地形図から読み取ることができる内容として正しいものを、下のアから力のうちから一つ選べ。



※読み取りやすくするために、地図記号や数値などの表記の大きさを変更してある。

(国土地理院発行 電子地形図 25000「下田」に加筆修正)

- ア A地点の北側の斜面には、果樹園が広がっている。
- イ A地点とB地点の標高差は、200 m以上ある。
- ウ A地点から16方位で南南東の方角にある島には、工場がある。
- エ B地点から16方位で南西の方角にある裁判所の西隣には、博物館・美術館がある。
（にじどなり）
- オ C地点の標高は、A地点の標高より高い。
- カ C地点から16方位で南南東の方角には、消防署がある。

問2 太郎さんは、週末に市内の公園のなかにある池の周囲のランニングコースを走っている。その池の形は完全な円形をしている。ランニングコースは池の外周に沿うように円形に設けられており、起伏はない。太郎さんが、2万5000分の1地形図で池の直径を計測したところ、8 cmであった。実際のランニングコース1周のおおよその距離と池のおおよその面積の組み合わせとして最も適当なものを、次のアからカのうちから一つ選べ。なお、円周率は3.14を用いるものとする。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
ランニングコース 1周の距離 (単位: km)	約 3.14	約 3.14	約 6.28	約 6.28	約 12.56	約 12.56
池の面積 (単位: km ²)	約 3.14	約 12.56	約 3.14	約 12.56	約 3.14	約 12.56

- 4 中世に出された次の法令を読んで、問1から問3までの各問いに答えよ。なお、この法令は現代語に訳し、一部を変えたり省略したりしてある。

一、諸国の守護の職務は、京都・鎌倉の警護を御家人に命じることと、謀反人や殺人犯などを取り締まることなので、それ以外はしてはならない。
一、国司や莊園領主の裁判に幕府が口出ししてはならない。
一、地頭は、莊園の年貢を差しあさえてはならない。
一、武士が20年の間、実際に土地を支配しているならば、その権利を認める。
一、女性が養子に所領を譲ることは、律令では許されていないが、武家の慣習として多く行われているので認める。

問1 この法令に関する説明として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア この法令が出されたのち、幕府は京都に六波羅探題を置き、朝廷を監視するようになった。
イ この法令は御家人のためにつくられたものなので、朝廷の決まりや律令を改めるものではない。
ウ この法令によって、武士が許可なく城を修理したり、無断で縁組したりすることを禁じた。
エ この法令によって、国ごとに守護を置くことがはじめて認められた。

問2 法令中の下線部に関する説明として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア 地頭の職務は、御家人を取り締まることである。
イ 地頭は、新田開発を奨励し、備中ぐわや千歯こきなどを普及させて生産力の向上に努めた。
ウ 鎌倉時代の武家社会では、女性が地頭になることも認められた。
エ 紀伊国阿兵(豆)河莊では、農民たちが団結して莊園領主の横暴をやめさせるよう地頭に訴えた。

問3 次の①から⑤は、中世の人物に関する説明文である。年代の古い順に並べ直したとき、3番目にくる人物と関係が深い寺社を、下のアからオのうちから一つ選べ。

- ① 11世紀後半に起きた合戦のうちに東北地方で力をのばし、平泉に拠点をおいた。
② この人物のあとつぎをめぐって、応仁の乱が起こった。
③ 後白河上皇の院政を助け、武士として初めて太政大臣に就任した。
④ 明との間に国交を結び、朝貢の形で勧合貿易をはじめた。
⑤ 岐阜や安土の城下町で楽市・楽座を行い、自由な商工業の発展をはかった。

ア 鹿苑寺 イ 本能寺 ウ 嵐島神社 エ 中尊寺 オ 慈照寺

5 次の文章を読み、問1から問3までの各問いに答えよ。

日本列島に勢力を拡大したヤマト政権は、中国の律令制度を取り入れて701年には大宝律令を完成させ、(1)律令に基づいて政治を行う中央集権の国家を作りあげた。令によって、政治のきまりとすすめ方が定められ、人々には口分田を与えて、(2)税を納めさせる仕組みができあがった。710年には大宝律令に対応した新しい都として平城京がつくられた。平城京を中心に政治が行われた約80年間を(3)奈良時代とよぶ。

問1 下線部(1)に関して、日本の律令で定められた内容として正しいものを、次のアからオのうちから二つ選べ。なお、解答の順番は問わないこととする。

- ア 政治の方針を決める太政官の下に、さまざまな実務を担当する八つの省を置いた。
イ ものさしやますを統一して、田畠の等級や面積を調べて検地帳を作成した。
ウ 冠位十二階の制を定めて、家柄にとらわれずに能力のある人を取り立てた。
エ 国ごとに中央から国司が派遣され、地方の豪族から任じた郡司を指揮して地方を治めた。
オ 農民を5戸ずつにまとめて五人組をつくらせ、犯罪防止や年貢納入に連帯責任を負わせた。

問2 下線部(2)に関して、次の表のAからDには、下の①から④のいずれかが入る。BとCの組み合わせとして正しいものを、後のアからクのうちから一つ選べ。

税の種類	租	調	庸	雜徭
税の内容 (正丁ひとり分)	A	B	C	D

※ 正丁 = 21~60歳の男性

- ① 絹・布(麻布)や海産物などの特産物を納める。 ② 年間60日以内の地方での労役につく。
③ 稲の収穫の約3%を納める。 ④ 労役の代わりに布(麻布)を納める。

- ア B-① C-② イ B-① C-④ ウ B-② C-③
エ B-② C-① オ B-③ C-④ カ B-③ C-②
キ B-④ C-① ク B-④ C-③

問3 下線部(3)の時期には、次の史料の和歌などを収めた歌集がつくられた。この歌集の説明として正しいものを、下のアからエのうちから一つ選べ。なお、史料の和歌は現代漢字に置きかえている。

史料

- ・からこも 裾にとりつき 泣く子らを 置きてぞ来ぬや 母なしにして
- ・君が行く 海辺の宿に 霧立たば 我が立ち嘆く 息と知りませ
- ・熟田津に 船乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎ出でな
- ・あおによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今さかりなり

- ア 天皇の命令を受けて、紀貫之らがこの歌集を編纂した。
- イ 日本語の発音を表現しやすくした仮名文字を使って書かれている。
- ウ この歌集は琵琶法師によって広められ、文字を読めない人々にも親しまれた。
- エ 天皇や貴族だけでなく、農民や防人など庶民の和歌まで広く集めている。

- 6 次の略年表とそれに関する説明文を読み、問1から問3までの各問い合わせに答えよ。

略年表

- ① キリスト教の宣教師が、はじめて日本で布教を開始した。
- ② 鎮國下の日本にやってきた「最後の宣教師」が、江戸の切支丹屋敷で牢死した。
- ③ ロシア使節のラクスマンが根室に来航した。
- ④ ペリーが浦賀に来航した。
- ⑤ 津田梅子を含む約60名の留学生が海外に渡った。

説明文 「最後の宣教師」について

2014年に東京都文京区小日向の切支丹屋敷跡から出土した人骨は、国立科学博物館でのDNA分析の結果、イタリア人宣教師シドッチのものである可能性が高いことが判明した。「最後の宣教師」と言われる人物である。布教のために日本への潜入を試みたが、屋久島上陸後すぐに捕まって長崎に送られ、さらに江戸で切支丹屋敷に幽閉されたのち、牢死した。キリスト教の改革が始まる2年前のことであった。

問1 次のaからcは、略年表中の①と②の間に起きた出来事について述べたものである。aからcを年代の古い順に並べ直したとき正しいものを、下のアからカのうちから一つ選べ。

- a イギリスで名誉革命が起こり、オランダから新しい国王を迎えた。
- b 李舜臣の水軍が日本との戦いで活躍した。
- c オランダ商館が平戸から出島に移された。

ア a → b → c

イ a → c → b

ウ b → c → a

エ b → a → c

オ c → a → b

カ c → b → a

問2 次の文はある国で起こった出来事を表している。これは略年表のどの期間に起きたことか。以下のアからエのうちから一つ選べ。

経済政策や奴隸制の是非をめぐって南部と北部とが対立し、国を二分する大きな内戦が起こった。

- ア ①と②の間
- イ ②と③の間
- ウ ③と④の間
- エ ④と⑤の間

問3 説明文中の下線部の改革の一環として行われたことを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア 株仲間を積極的に公認して営業上の特権を与え、代わりに営業税を徴収することで、幕府の収入を増やそうとした。
- イ 農村から都市に出稼ぎに来ていた人びとに資金を与えて村に帰すことで農村の再生をはかり、ききんに備えて米を備蓄させた。
- ウ 長崎での貿易を活発にするために倭物と呼ばれた海産物の輸出を奨励し、大きな沼や蝦夷地の開発を計画した。
- エ 質素・儉約をかけて支出を抑え、年貢収入の増加をはかり、裁判での刑罰の基準となる法を定めて裁判を公正にしようとした。

- 7 次の史料は、日本を訪れたタタール人イスラム教徒のイブラヒムという人物と、内閣総理大臣をつとめた人物 A との会談についてイブラヒムが書いた記録の一部である (A のなかにはある人物の名前が入る)。史料を読み、問1から問3までの各問いに答えよ。なお、史料は出題の都合上表現を一部改めている。

史料

前方から一人の男性が歩いてきた。近づくにつれて A その人であるとわかった。挨拶を交わした。 A は微笑みながら、

「お人違いでなければ、イブラヒムさんですね」と言った。

「はい、訪問の榮に浴させていただきたく、やってまいりました。」

(中略)

A は、日本で最も偉大な思想家の一人で、かつては大臣職を歴任した。この当時は韓国統監として大きな権力をふるい、何でも思いのままであるという。

(中略)

「私（イブラヒム）は、ロシア国籍のタタール人^{こくせき}*で、宗教はイスラムです。」

(中略)

「私たち日本人のイスラムに対する知識は、残念ながらじつに乏しいものです。（中略）私にイスラムの本質について少しご教授いただけないでしょうか。」

(中略)

現在（イブラヒムと A の会談の翌年）、朝鮮は正式に日本に統合されている。

*タタール人とは、おもにロシアのヴォルガ川中流域に居住するトルコ系民族であり、イスラム教徒が多い。

（岩波書店「ジャポンヤ——イブラヒムの明治日本探訪記」より）

問1 史料中の A の人物についての説明として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア 満州国建国に反対したが、五・一五事件で暗殺された。
- イ 岩倉使節団の一員であり、大日本帝国憲法の制定に尽力^{ていこく}した。
- ウ 本格的な政党内閣を成立させ、「平民宰相^{さいいしょう}」と呼ばれた。
- エ 国家総動員法の制定や、大政翼賛会^{たいせいよくさんかい}の結成を行った。

問2 史料の会談が行われた時期として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

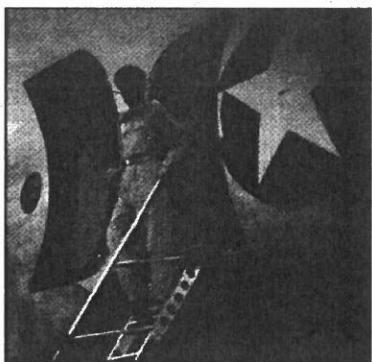
- ア 日清戦争より前
- イ 日清戦争と日露戦争の間
- ウ 日露戦争と第一次世界大戦の間
- エ 第一次世界大戦と第二次世界大戦の間

問3 史料中の下線部のロシア（ソ連）と日本の明治時代以降の関係の説明として正しいものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア 日本はロシアと樺太・^{からふと}千島^{ちしま}交換条約を結び、樺太を日本が領有し、千島列島をロシアが領有するように取り決めた。
- イ 第一次世界大戦後にロシア革命が起こると、日本はそれに干渉^{かんしょう}するために各國と共にシベリアに出兵した。
- ウ 日本は第二次世界大戦中に日ソ中立条約を締結し、北方の安全を確保したうえで日中戦争^{ていけつ}を開始した。
- エ サンフランシスコ平和（講和）条約によって日本の独立が回復されたが、ソ連は日本との平和条約に調印しなかった。

8 次の写真1から3を見て、問1から問4までの各問い合わせに答えよ。

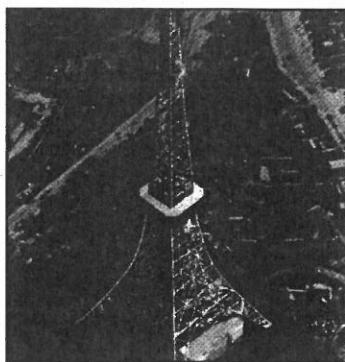
写真1



(ナショナルジオグラフィック HP
より作成)

占領政策を進めるために、
連合国軍総司令部(GHQ)
の元帥が日本に到着した。

写真2



(日本民間放送連盟
『民間放送十年史』より作成)

当時「世界一の自立鉄塔」
と呼ばれた、展望台付き
電波塔が完成した。

写真3



(共同通信 HP より作成)

戦後の田中内閣のころ、物
価が高騰し、対策を求めて
主婦たちがデモ行進した。

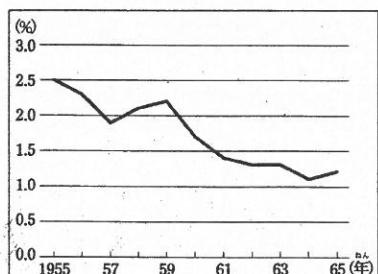
問1 写真1に関する次の説明文中の空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下のアからエのうちから一つ選べ。

説明文

この人物を最高司令官とするGHQの指示により、日本は国民主権、A、平和主義を三つの大きな原則として掲げた新たな憲法を制定した。この憲法のもと、国会は衆議院とBで構成され、民主的な政治がすすめられることとなった。

- | | |
|-------------------|---------|
| ア A - 基本的人権の尊重 | B - 参議院 |
| イ A - 基本的人権の尊重 | B - 貴族院 |
| ウ A - 天皇の名における司法権 | B - 参議院 |
| エ A - 天皇の名における司法権 | B - 貴族院 |

問2 写真2に関して、この電波塔が完成したころを含む1955年から65年は、「高度経済成長」と呼ばれる、経済が急速に発展した時期のうちにいる。この間にに関する、左下のグラフが示している事柄として正しいものを、右下のアからエのうちから一つ選べ。



- | |
|--------------------------------------|
| ア テレビ放送を楽しむために人々が購入した、白黒テレビの普及の割合。 |
| イ 「もはや戦後ではない」と経済白書で表現された、経済成長率。 |
| ウ 所得倍増政策など好調な経済を背景とした、完全失業率。 |
| エ 東京オリンピックに向けた、全就業者に対する第二次産業の就業者の割合。 |

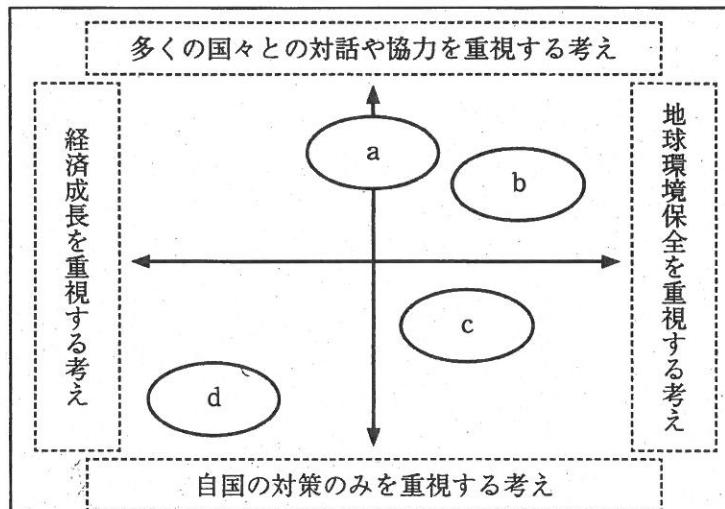
問3 写真3の時期に起こった、世界的な不況に関する記述として適当でないものを、次のアからエのうちから一つ選べ。

- ア 中東地域での戦争の影響により、石油の価格が大幅に上がったため、日本など先進国は経済的に大きな影響を受けた。
- イ 原材料を輸入に頼っている日本では、紙製品や洗剤といった生活必需品が不足するといわれ、売りおしみや買いだめが起こった。
- ウ 日本の企業^{きぎょう}は省エネルギー・省資源の経営に努め不況を乗り切ろうとしたと同時に、この時期の数年前に日本ではじめて制定された公害対策の法律への対応が求められた。
- エ 急速な景気悪化への対策のために財政赤字が増大した日本の政府は、税収を増やすため新たに3%の消費税を導入した。

問4 写真3のころから、地球環境保全と経済成長の関わりについての課題が世界的に意識されるようになり、その解決にいたる努力がなされている。次のXからZは、その課題解決に向けた考えをまとめたものである。それぞれの考えを、左下の図中のaからdのいずれかに当てはめたときの組み合わせとして最も適当なものを、右下のアからクのうちから一つ選べ。

X	Y	Z
まずは発展途上国の各々ごとに経済成長をめざし、適切な地球環境保全を行うことができるまで経済力をつけるべきである。	経済成長をしている国々が発展途上国に技術や資金を提供して、各国の状況に合わせて地球環境保全に優先的に取り組むべきである。	多数の国が公正な話し合いを行い、合意を得たうえで地球環境保全と経済成長を両立させる方法を検討すべきである。

図



	X	Y	Z
ア	a	b	c
イ	a	c	d
ウ	b	c	d
エ	b	d	a
オ	c	a	b
カ	c	d	b
キ	d	a	c
ク	d	b	a